

会 議 記 録			
会議の名称	総務文教常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 数井
日 時	令和4年6月23日（木曜日）	開 議 閉 議	午前10時00分 午前11時31分
出席委員	◎浅田 ○松山 三上 山本 木村 齊藤 石野		
執行機関 出席者	元古人権啓発課長、西出人権啓発課副課長 片山教育部長、久保教育部次長、岡田教育総務課長 岩崎歴史文化財課長兼文化財係長事務取扱 八木歴史文化財課副課長兼資料館企画係長事務取扱		
事務局	井上事務局長、数井事務局次長		
傍聴	可	市民 0名	報道関係者 0名 議員 0名（ ）

## 会 議 の 概 要

10:00

### 1 開議

### 2 事務局日程説明

### 3 議案審査

<浅田委員長>

6月20日の議案審査で持ち越しとなった第1号議案令和4年度亀岡市一般会計補正予算（第2号）東部文化センター空調設備について、生涯学習部から説明を受けることとする。

（生涯学習部 入室）

10:01～

【生涯学習部】

（1）第1号議案 令和4年度亀岡市一般会計補正予算（第2号）

人権啓発課長 説明

10:05

《質疑》

<木村委員>

キュービクルに580万円、エアコンの管理費に220万円、計約800万円が高いのではないかと考えたので質問したが、国土交通省の計算基準によると正しいということか。

<人権啓発課長>

そのとおりである。国土交通省の公共建築工事共通費積算基準に基づき積算している。

<木村委員>

一般の土木建築工事と計算方法は違うのか。

<人権啓発課長>

公共と民間の工事の違いは分からないが、公共工事については、この基準に基づき算出している。

(質疑終了)

10:07

(生涯学習部 退室)

<浅田委員長>

6月20日の議案審査で持ち越しとなった第1号議案令和4年度亀岡市一般会計補正予算(第2号)「亀岡市デジタル文化資料館(仮称)」構築事業について、教育部から説明を受けることとする。

(教育部 入室)

10:11~

**【教育部】**

**(1) 第1号議案 令和4年度亀岡市一般会計補正予算(第2号)**

教育部長 あいさつ  
歴史文化財課長 説明

10:17

《質疑》

<三上委員>

委託先はこれから決定するとのことだが、委託料の算出はそれなりのブレンがないと額が出てこない。結構多額な業務委託料なので、どのような形で算出したのか。

<歴史文化財課長>

文化資料館では、亀山城のデジタル化など、これまで様々な事業者と関わってきた。その事業者のヒアリングや、文化資料館職員が視察したデジタル見本市での情報をもとに、それぞれの見積単価について算出した。

<三上委員>

この分野は技術的に日進月歩であり、どんどん増えてくるとコストは低くなるかもしれないし、もっと安価で同じだけのことができるようになるかもしれない。盛りだくさんにすればするほど経費がかかると思うので、このことを十分に注意して、委託事業者を決定してもらいたい。

<木村委員>

収蔵スペースについて、設計費に900万円、工事費用に5,000万円かかるとあるが、文化資料館の中につくるのか。

<歴史文化財課長>

収蔵スペースは、別の場所で考えている。

<木村委員>

文化資料館も老朽化しており、今後、建設の話がされている中で、そのときには簡単に移設できるのか。

<歴史文化財課長>

文化資料館の懇話会では、既存施設を補強するか、除却して建て替えるのか、まだ検討段階であり、今の文化資料館の敷地に収蔵庫を建てることは先が見えず、ほかの場

所がよいと考えている。

<木村委員>

その候補地は。

<歴史文化財課長>

大井町南金岐で、貯水池を埋め立て、現在資材置き場となっている土地を候補にしている。

<木村委員>

その場所は知っている。土砂等が置いてあるが、そこに建てるのか。

<歴史文化財課長>

今のところその予定である。

<木村委員>

その土地は、ハザードマップで危険箇所と指定されており、また、貯水池の埋め立て後ということで、消防団の屯所地の候補に挙がったものの、建築はできないと聞いたが、その点が考慮されているのか。

<歴史文化財課長>

収蔵庫としては、600平方メートル程度の土地が必要であり、市有地を調査したところ、当該地を候補とした。調整区域ではあるが、都市計画課と相談し、文化財保護法により、人の常駐はなく、そういった建物であれば建築できるとのことであった。

<木村委員>

ハザードマップのこともあり、造成が全くできておらず、池を埋めただけで、土手の改修も必要と考える。今後、どのようにするか報告願いたい。

また、次年度以降のランニングコストは幾らになるのか。

<歴史文化財課長>

サーバーの使用料としては800万円程度必要であると考えている。メタバースの業務委託をする際に、来年度以降の運営についても提案してもらうことを考えている。

<木村委員>

今回は国庫補助金が充当できるが、今後、一般財源のみになるのか、ふるさと力向上基金を充当するかは分からないが、10年たてば1億円近くの経費が必要であるので、財源についても検討願いたい。

<松山副委員長>

ランニングコストが毎年800万円ぐらい必要ということで、その維持には単体で収益性を生むような仕組みをつくらなくてはならないと考える。民間事業者からのアドバイスはあると思うが、民間事業者にとっては商売であり、また、新規事業者も参入してきている中で、よく知っているようにアドバイスされることもあると聞く。やはり、この資料館として収益を必ず生まれさせるような仕組みが大切だと思うがその点についてどうか。

<歴史文化財課長>

収益について、プラスになることは考えておらず、民間事業者に運営を任せて、市の経費をかけず維持できないかと考えている。事業者からの提案をしっかりと見極めながら対応していきたい。

<松山副委員長>

プロポーザルを実施する中で、1社しか応募がなく、そのまま契約することにならないように、いろいろな方面に声掛けをして、それぞれ提案を受けた中で本当にベストな形をもっていただくよう要望する。

<三上委員>

まだまだこれからの分野だとは思うが、ほかの地方公共団体で同じように取り組んでいるところがあるのか。あればどのような成果を上げているのか。

<歴史文化財課長>

事業者からのヒヤリングによると、大阪市、京都市、韓国のソウル市がしているとのことで、亀岡市の規模の都市圏では今のところはなく、今回の取組が先駆けになる。

<三上委員>

先駆的という言葉は魅力的であるが、毎年サーバーの使用料やメンテナンスなど、いろいろな費用が必要となる中で、どれほど市民福祉の増進につながっていくのか分からないといった不安がある。京都市や大阪市に直接聞くなど、調査はしているのか。

<歴史文化財課長>

直接担当者に聞いてはならず、メタバースに関わっている事業者からの情報である。

<三上委員>

是非、他市の担当職員に良い話、悪い話を聞きとっていただきたい。事業者は実施できると言うであろうが、やはり早急にやるべきものかどうか不安な点がある。意見になるが、文化財のデジタル化はやればよいと思う。非接触型の本事業の取組も大事であり、例えば仏像を写真で見ただけでなく、360度全部が見られる、あるいは、仏像内に隠れているものが見られる、という良さはある。しかし、文化財にそこまで興味をもって見る人は、かなりコアな人で、環境や観光、SDGs、かめおか霧の芸術祭に興味がある人が多いと思うし、だから、最初は的確に文化財のデジタル化を進め、その後は、市として所管替えを含め、横断的に検討してはどうか。

<教育部長>

仮想空間メタバースやデジタル化の技術は、まだ確立されていないことは認識している。副委員長から収益性の提案があったが、全て収益で賄うことは難しく、一定程度費用の捻出はやむを得ないと考えているが、一方で、コストパフォーマンスを考えながら、実施することは大切である。三上委員の意見のとおり、文化資料館のデジタル化のみでとどまることなく、他の部局と連携を図る中で、今後より効果的な取組になるように努める。

<齊藤委員>

必ず仮想空間メタバースの時代になるので、それに向けて、教育部としても子どもたちがメタバースを体験できるよう役立ててもらいたい。韓国の釜山の高校では、メタバースによって政治を体験し、実際の投票率を上げようという取組や、仮想で議員の経験をするなどしており、この文化資料館の先駆的な取組を教育に生かしてもらいたい。

<松山副委員長>

ECサイトを開設し、かめおか霧の芸術祭の関係者が販売できるようにすると聞いたが、関係者でないといけないのか。

<歴史文化財課長>

かめおか霧の芸術祭は一例であげた。ECサイトでは、亀岡の農産物や特産物を販売できればと考えている。

(質疑終了)

10:40

(教育部 退室)

(休憩)

10:40~10:55

## 4 討論・採決

《委員間討議》

<浅田委員長>

討論・採決に入る前に、委員間討議の希望はあるか。

<三上委員>

亀岡市デジタル文化資料館（仮称）構築事業について、これからの課題であり、今後大事なアイテムになると考えるが、文化資料館だけで担当することにならないように、また、毎年800万円程度の経費がかかるとのことで、委員間討議してはどうか。

<浅田委員長>

今の件について、委員間討議をするか。

<木村委員>

何か収益がでるようなシステムはないか、委員間討議してもよい。

<浅田委員長>

では委員間討議を行う。意見はあるか。

<齊藤委員>

今後のランニングコストは必要であるが、将来の子どもたちのための教育費だと考えればそれほど高くないと思う。その仮想空間の中のコンテンツで、有料にできるものを検討して収益を生む仕組みを考えていけばよい。

<松山副委員長>

この先どういう時代になるかは分からないが、確実にメタバースの時代は来ると思う。当初は国の補助金が入ってくるが、今後、維持経費をどうしていくか、これが教育的価値のあるものであればお金には変えられないと思うが、どのように価値を生み出していくか、外部の意見だけではなく、市として考えていく必要がある。答弁の中でもあったように、文化資料館だけのメタバースにせず、観光戦略や教育、まちづくりの観点で連携を図ってやっていけば、よいものができるので使っていくようお願いしたい。ただ、今回議案に上がってくる前に行政報告が一回あっただけで、今後の展開が見えていない中で、第5次亀岡市総合計画との議論も必要ではないかと思う。

<齊藤委員>

行政は予算ありきの点が多く、財源がついたからやるという面がある。結果的に2億円の財源がでるので、いかに有効に使うかを考えるしかない。亀岡の文化的な資料をメタバース化し、観光などに波及していくように取り組めばよい。

<三上委員>

国の財源とはいえ、当初2億円の経費がかかり、毎年、800万円程度の経費がかかることについて、市民への説明責任が発生するため、議員ももっとよく知らなければいけないし、その途中経過もしっかり把握しなければならないと思う。文化財のデジタル化から始めて、それにいろいろな政策が乗っかっていくようにしていく必要がある。文化資料館、観光、環境と検索すれば、亀岡に来たような体験ができる仕組み、例えば、湯の花温泉への宿泊や砥石体験ができるような仮想空間づくりとしたい。議会として市民に答えられるように、事業経過の説明をしてもらいたい。

<木村委員>

収蔵庫の場所は、大井町南金岐の説明のあったところでよいと思うが、費用的に5,000万円ですり足りのか心配する。メタバースについては、観光名所の店舗にスポンサーとして入っていただき、広告を掲載するなど、使用料を少なくできるようにしていかなくてはならない。来年度の予算案にも計上されると思うので、その点を審議し

ていく必要がある。

<齊藤委員>

先ほどの私の発言を訂正する。釜山のメタバースの実例での発言で、高校ではなく小学校である。釜山の小学校では、メタバースを使った授業をしており、実際に議員になり、法案を出すなど先進的な取組をしている。

<山本委員>

文化資料館のデジタル化では、観光などに活かしていくことが必要だと思っており、市民をどのように巻き込んでいくかが重要である。何らかの収益が上がる方法も今後考えていく必要があり、大阪市や京都市など先に取り組んでいるところに話を聞いていないとのことで、情報収集に努め、事業者に丸投げすることのないようにしてもらいたい。

<三上委員>

市も情報をつかまないといけないが、委員会でも京都市に視察に行くこともできる。それから、収益については、市内の経済が回ることが大事なので、そういう仕組みづくりも大切である。

<山本委員>

私も市として収益性が上がる取組ができればという意味で話をした。

<石野委員>

この仮想空間の活用により、他市から人が来れば観光振興にもなる。亀山城は日本の名城という話も聞いたことがあり、今の城跡をうまく活用できればよい。

<松山副委員長>

私が言う収益は、メタバースを使っての直接的な収益だけでなく、メタバースを使った仕組みの中で収益化され、結果それが市民のためになると考えている。

<齊藤委員>

皆同じ意見であると思う。

11:13

《討論》

なし

11:14

《採決》

<浅田委員長>

賛成者は挙手願う。

第1号議案（一般会計補正予算）

挙手全員

可決

第4号議案（財産区有財産の処分）

挙手全員

可決

第6号議案（亀岡運動公園競技場第三種公認改修工事請負契約の締結）

挙手全員

可決

11:15

《指摘要望事項》

<齊藤委員>

今討議した内容のほかに、ICT技術による行政手続きのデジタル化を進めるに当たり、行政のスリム化の検討を入れていただきたい。

<三上委員>

齊藤委員の意見を全部否定するわけではなく、スリム化は必要だと思うが、もう少し詳しく聞きたい。

<齊藤委員>

これから市の人口が減っていく中で、ICTで窓口業務を簡素化しようと取り組んでいくのなら、職員のスリム化は必要だと考える。

<三上委員>

事務を効率化、簡素化することで、職員がもっと別の部分に力を注ぐことができる。確かにパソコンから何でも手続きできるようになれば便利であるが、出来ない人がおり、「最近市役所が冷たい」、「対応が悪い」という声を聞く。そういったところに力を入れてほしいと思うので、業務の効率化の先に人員削減を入れるかどうかは慎重にしていすべきである。齊藤委員のスリム化の意図がどこにあるのか判断しかねる。

<齊藤委員>

そろばんとパソコンの計算スピードを考えると人員削減になるので、ICTが何のためにあるのか、市民に分かりやすくするには簡素化する必要がある。ICTの取組も税金を使っているため、行政的に何もしないことはおかしい。実際されるかどうかは別として、委員会として指摘要望するべきではないか。

<三上委員>

これから人口が減って、税収も減る中で、人件費が大きいいため、スリム化という理論は理解しているし、そのことを否定していない。ただ、今回の議案で、そこまで踏み込んで意見をすべき内容なのかどうか。この案件に意見としてそこまで踏み込んでつけなくてもよいと思うが、皆が一致してその意見をつけようというなら、指摘要望してもよい。

<松山副委員長>

齊藤委員と三上委員の意見はどちらも分かる。ただ、人員削減という言葉は直接入れるのではなく、行政のスリム化を進めていくため、職員の業務改善というような意図は共通認識であると思うので、そういう形でまとめられればと思う。私も行政のスリム化は大切だと思っているが、今後、委員会としてそういったことを検証していかないといけない。RPAやデジタル窓口を促進したが、結果市民にとって手続きの進捗もスピードも変わってないことがあれば、委員会として検証していくべきだと考えるし、その辺りをまとめた形で、委員長報告としてはどうか。

<齊藤委員>

そういうソフトな感じでよいと思う。新しいものを導入すれば、どういう効果があったのかを含め、スリム化ということも考えに入れて検証する必要がある。

<三上委員>

行政のスリム化という言葉から勝手に私がイメージした部分もあるが指摘要望とするのであれば、例えば、スマート自治体として業績をしっかりと上げていただくという意見でどうか。この事業は、市民が便利になったと思っていただくことで完結するもので、家から申込みができる、わざわざ市役所に来なくてもよい、というように広がっていくことが大事であり、スリム化は誤解を生む恐れもあり、いわゆるスマート自治体という言葉のほうがよいと思う。

<齊藤委員>

スマート自治体でよいと思う。極端な話では、リトアニアは職員が3人しかおらず、何もかもパソコンで処理しているが、そこまでしようとは言ってない。将来に向けて、スリム化も考えてほしいと思っている。

<浅田委員長>

委員長報告の作成については正副委員長に一任願い、6月27日の委員会で確認いただくのでよろしく願います。

## 5 その他

### (1) 議会だよりの掲載事項について

<山本委員>

自治体で柔軟に対応できる財源として、地方創生臨時交付金が交付され、市民もその使途に非常に興味を持っておられ、総務文教常任委員会の所管では、食材の物価高騰対策として給食費の据置きに活用されたので、給食センター管理経費の増額補正を掲載していただきたい。

<三上委員>

一つはそれでよいと思う。もう一つは、指摘要望するデジタル文化資料館でどうか。

<浅田委員長>

この二つでよいか。

— 全員了 —

### (2) 次回の日程について

<浅田委員長>

今回は6月27日(月)午前10時に再開する。

散会 ~11:31